

本音の コトバ



前川 喜平

安倍氏の国葬で自衛隊の音楽隊が演奏した曲の名を見て戦慄を覚えた。

黙禱の際に演奏された曲は「國の鎮め」。明治時代に作られた軍歌で、その歌詞はこうだ。「國の鎮めの御社と齋き祀らふ神靈今日の祭りの賑ひを天翔けりても御覽せ治まる御世を護りませ」。御社とは靖国神社や護国神社のこと。神靈とは戦死者の霊のこと。これは明らかに国家神道の歌だ。国の機関が行う行事でこのような曲を演奏することは憲法二〇条三項の政教分離原則に違反している。

天皇の使いの拝礼の際に演奏された曲は「悠遠なる皇御國」。これも戦

ユウエンナルスメラミクニ

前に作られた曲かと思いきや、作曲者は自衛隊の音楽隊員で、初演されたのは二〇一九年だという。悠遠とはアマテラスオオミカミに始まる皇統の古さを表す言葉だ。皇御國とはアマテラスがその孫であるニギノミコトに与えた神勅により代々の天皇が治める国のことだ。この曲名は戦前の國體思想そのものではないか。僕はわざと國という旧字を使って今は通用しない觀念だということを示しているのだが、この曲の作者は逆に國體を復活させたいと思っこの字を使ったのではないか？ この曲名は天皇を主権の存する国民の総意に基づく象徴とする日本国憲法に反している。せめて曲名を「平和なる日本国」にでも変えてほしい。（現代教育行政研究会代表）

2022.10.2

前回触れた『フライデー』の旧統一教会（世界平和統一家庭連合）内部情報のスクープだが、あちこちで話題になっており、同誌は十月十四日号に第二弾を掲載した。見出しは「旧統一教会信者向け『ネット会議』で飛び出した爆弾発言すべて書く」だ。

ネット会議とは教団が全国の支部の現場責任者クラス向けに行っているもので、同誌は八月十九日開催分の音声データを入手したという。前号ではその中から田中富広会長の話を報じたのだが、信者向けとあって「ぶっちゃけトーク」で本音を語っていた。例えば今矢面に立たされている自民党議員についてはこう話していた。

政界との癒着、追及 どこまで

旧統一教会の内部情報流出

れていなくても、マスコミがヒステリー状態になっているので身をかがめてやり過ごすしかない」最新号の第二弾では関



9月25日～10月1日

連団体幹部の話が紹介されている。教団の関連団体がたくさん作られているのは「ファイヤーウォール、防火壁」であり、トラブルなどが起きた時に「その責任が宗教法人に降りかからないように

自ら語るのには説得力があるし、わかりやすい。この幹部は、今の事態はその壁が突破されているとして信者たちに危機感をあおっているのだ。こうした内部の話が漏れたことに教団側で動揺も起きたようで、今回の記事には匿名の教団関係者のこういう証言も載っている。「フライデー」にネット会議の詳細が報じられ、教団内部には動揺が走りました。完全に内部向けの会議が流出したのは、信徒の間にそれだけ教団トップへの不信任感が募っているということでしょう」

記事掲載以降の「ネット会議」はすべて中止になったという。旧統一教会と政界の癒着問題、追及は今後、どこまで進むのだろうか。

（月刊「創」編集長・篠田博之）

話題の発掘